

曾根干潟のいきものたち

野鳥

曾根干潟は全国でも有数の越冬地で、春・秋・冬を中心にカモ類、シギ類、カモメ類などこれまでに100種以上が確認されています。曾根干潟に飛来する野鳥は、干潮時には主に採餌場、満潮時には主に休息場として、干潟を利用しています。

曾根干潟の代表種

代表的な野鳥はズグロカモメ(絶滅危惧Ⅱ類)、ツクシガモ(絶滅危惧Ⅱ類)、ダイシャクシギ(福岡県RL 絶滅危惧Ⅱ類)の3種で、1975年頃から継続して確認されています。いずれも砂泥干潟に適応した特色ある採餌方法が見られます。



【夏羽】

ズグロカモメ 冬

【特徴】

黒く短いくちばしと暗赤色の脚が特徴です。夏に中国沿岸で繁殖し、冬に日本や台湾、ベトナムに渡って越冬します。

曾根干潟は日本有数の越冬地で約300羽が越冬します。10月末ごろに訪れた際は頭部が白い冬羽、去りはじめる2月末ごろには夏羽に変わり頭部が黒くなります。

【採餌方法】

①潮の引いた干潟の上を低空で飛んで、獲物を発見すると急降下して、採餌する方法(飛翔採餌)と(右図)②干潟を歩きながら干潟表面をついて採餌する方法(つつき掘り)があります。



【冬羽】



■ 飛翔採餌のイメージ



ツクシガモ 冬

【特徴】

白っぽく見える大型カモ類です。黒赤茶白と鮮やかな色彩がよく目立ちます。ユーラシア大陸の温帯で繁殖し、曾根干潟では約300羽が越冬します。12~3月に見られます。

【採餌方法】

潮のひいた干潟で地面にくちばしをつけ、振りながら歩き、くちばしに触れた貝類やカニ類を食べるといった泥干潟に適した採餌方法です。



ダイシャクシギ 冬

【特徴】

大型のシギで下向きに大きく曲がつたくちばしと腹や腰が白のが特徴です。曾根干潟では冬鳥として12~3月に約80羽が越冬します。

【採餌方法】

長いくちばしを泥の中に突き刺し、穴に入ったカニを捕食します。潮の干満によって移動し、藻類(みおすじ)を中心にエサをとります。

シギ・チドリ類



ハマシギ 春 秋

冬鳥または旅鳥として浅い場所や河口に多数渡来します。数百羽以上の大群で飛び回ることもあり、干潟で忙しく動き回り、ゴカイや小さなカニなどをエサにします。



オオソリハシシギとチュウシャクシギ 春 秋

薄茶色の胸、少し反りあがつたくちばしがオオソリハシシギで、くちばしが下に曲がっているのがチュウシャクシギです。春と秋に曾根干潟を中継地として約400羽が渡来し休息します。



ハウロクシギ 春 秋

大型のシギ類です。ユーラシア大陸東北部で繁殖し、オーストラリアで越冬します。曾根干潟には、3~5月と8~11月頃に渡りの途中で訪れます。

カモ類



マガモ 通年

雄は頭が緑色でくちばしが黄色、メスは全体が褐色でくちばしが黒色です。曾根干潟では10~5月に1,000羽以上が越冬し、昼間は水面に群れ、夜間は水田や湿地などでエサをとります。



ヒドリガモ 冬

冬鳥として河川や河口に渡来します。オスの頭はオレンジ色で頭頂部がクリーム色であることが特徴です。海藻を好む草食性で、曾根干潟には約100羽飛来します。

その他



ミサゴ 通年

翼が細長くて尾が短く、頭は白く背面は暗褐色の大型の夕カです。海岸などに生息し、高いところから水に飛び込んで足指で魚をとらえ、岩や木など一定の食事場所に運んで食べます。曾根干潟では年間を通して見られますが、冬に多く見られます。



クロツラヘラサギ 冬

トキ科で東アジアに生息する重要種です。曾根干潟には、毎年20羽以上飛来しており、重要な越冬地として注目されています。

春 秋 冬 通年 曾根干潟で野鳥の観察ができる時期